

第6期宮前区区民会議第2回会議

第6期宮前区区民会議第2回会議

- 1 日 時 平成28年8月4日（木）午後6時
- 2 場 所 宮前区役所4階大会議室
- 3 出席者
 - (1)委 員 川田委員長、青柳副委員長、影山副委員長、老門（聰）委員、大久保委員、小田委員、滝本委員、椿委員、中里委員、中村委員、荒川委員、老門（泰）委員、佐籐委員、田辺委員、山田委員、山部委員
 - (2)参 与 織田参与、渡辺参与、矢沢参与、佐々木参与、持田参与
 - (3)事務局 野本区長、堤副区長、小佐野区民サービス部長、小林向丘出張所長、池田保健福祉センター副所長、松浦保健福祉センター担当部長、福嶺総務課長、吉越生涯学習支援課長、高石企画課長、小山企画課担当係長、米塚企画課担当係長
- 4 議 事
 - (1)審議経過の報告
 - (2)専門部会発足について（メンバー決定、運営方法、議事内容等）
 - (3)専門部会の進め方等についての意見交換
 - (4)今後の審議スケジュールの確認
- 5 その他連絡事項
 - ハテナノタネの進捗状況について
 - 第1回・第2回専門部会、第3回全体会の日程調整表について
 - 区民会議だより第34号の発行について
- 6 傍聴者数 0人

午後6時開会

司会（堤） 皆様大変お待たせをいたしました。定刻となりましたので、これより区民会議を開催いたします。

本日の進行を務めます宮前区役所副区長の堤でございます。どうぞよろしくお願いたします。恐縮でございますが、ここで着席をさせていただきます。

それでは、開催に先立ち事務連絡をさせていただきます。本日の会議開催に当たりまして、この会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開とさせていただきます。したがって、傍聴、報道機関等の取材許可をしておりますので御了承いただきたいと存じます。また、会議録の作成に当たり、速記者に同席をいただいておりますのでよろしくお願いたします。そして、本日の発言のございました方々につきましては、後日、議事録の確認をお願いしたいと存じますので、よろしくお願いたします。なお、確認後の議事録は区役所ホームページに掲載をいたします。また、傍聴の方々につきましては、遵守事項をお守りいただき、本日の会議に

関するアンケートへの回答をいただきたいと思います。

次に、本日の委員、参与の方の出席状況について御報告をいたします。区民会議委員につきましては、大木委員、砂川委員、葛西委員から欠席の御連絡を事前にいただいております。また、参与につきましては、織田参与、渡辺参与に御出席をいただいております。また、田村参与、山田参与、飯田参与からは事前に欠席される旨の御連絡をいただいております。

1 開会あいさつ

司会（堤） それでは、議事に先立ちまして、宮前区長の野本から一言御挨拶を述べさせていただきます。

区長 皆様こんにちは。梅雨も明けまして大変お暑い中ですがけれども、第2回区民会議にお集まりをいただきまして本当にありがとうございます。5月20日に第1回目の区民会議が開かれて以来、2回の準備会を開いてくださったと伺っています。そこではテーマについて大変活発な議論がなされたと伺いました。本当にありがとうございます。この区を良くしていくために、これからの2年間ぜひ十分に意見交換をしていただきながら、区の将来像について考えていただけたらと思っております。

本日は、これまでの審議の状況について共有いただくとともに、今後の議論の方向性などを御議論いただければと思っております。本日は議事、報告事項ともに数多くございます。ぜひ皆様の積極的な意見交換を期待申し上げまして、簡単ではございますが私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

司会（堤） ありがとうございます。

続いて、本日皆様のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきたいと存じます。

まず、表紙、本日の会議次第、次に座席表、その次が委員名簿、次のページが第6期宮前区区民会議の進行イメージ、次に審議テーマ希望のまとめがございまして、次に第6期宮前区区民会議専門部会構成(案)がございまして、別紙といたしまして、第2回準備部会摘録がございまして、そのほかに、みやまえ区民会議だより第34号と、みやまえハテナノタネを添付してございます。以上が本日の会議資料でございまして、落丁等はないでしょうか。——よろしゅうございますか。

それでは、これより第6期宮前区区民会議第2回全体会議を開催いたします。これからの進行は委員長にお願いいたします。川田委員長、よろしくお願いいたします。

2 議事

川田委員長 それでは、引き続きまして議事を進めていきたいと思いますが、本日は19時50分を終了目標にしておりますので、皆様方、御協力をよろしくお願いいたします。

(1) 審議経過の報告

川田委員長 今回の全体会では部会の立ち上げを行うことになりますが、まずは4月からスタートした第6期区民会議がどのように審議を行い、きょうに至ったかを説明いたします。配付資料の3にこれまでの議論のスケジュールが記載されております。まず、5月20日の第1回全体会で、各委員から課題と感じていることについての発表を行いました。これらの課題について、6月13日の第1回準備部会においてさらに整理した上で、今期の区民会議で検討したい、取り上げるにふさわしい審議テーマを第1希望、第2希望まで書いて提出していただきました。配付資料の4をごらんください。こちらが委員の皆様への審議テーマ希望をまとめた表です。7月14日に開催された第2回準備部会では、この表を参考にしつつも、単に票数の多い少ないだけで判断するのではなく、委員の皆様の話し合いによって専門部会の構成案を作成することになりました。

次に、配付資料5をごらんください。議論を進める中で、防災、地域福祉、高齢者、子育て、世代間交流、地域コミュニティなどといったテーマについて、人のつながり・支え合いといったキーワードでまとめるメンバーと、交通、住環境、魅力発信、産業振興、緑・農、過去の課題の検証、中長期課題把握・対応といったテーマについて、ハード的な側面からまとめるメンバーに分かれてきました。その結果構成されたのが、専門部会A、仮称でございます地域福祉部会と、専門部会B、仮称でございます地域活性部会となっております。これらの部会は、現段階ではさまざまなテーマを内包した非常に大きなくくりとなっております。今後専門部会に分かれて議論を重ねる中で、核となるテーマやターゲットなどをさらに絞り込んでいくこととなります。

以上で今期区民会議の本日までの審議経過報告を終了いたします。

(2) 専門部会発足について（メンバー決定、運営方法、議事内容等）

川田委員長 それでは、ただいまの報告に基づき、地域福祉部会、地域活性部会の2つの部会を設立し、今期区民会議の審議を進めていきたいと思っております。また、委員長、副委員長、各部長からなる企画部会を開催し、全体会の事前調整などを行ってまいります。そして、各部会の所属メンバーは、地域福祉部会は青柳副委員長初め、老門聰子委員、大久保委員、小田委員、葛西委員、砂川委員、滝本委員、椿委員、中里委員、中村委員、そして地域活性部会が影山副委員長初め、荒川委員、老門泰三委員、大木委員、黒澤委員、佐藤委員、田辺委員、山田委員、山部委員、このような構成とさせ

ていただきたいと思います。

以上、部会創立とメンバー構成について、皆様の御了承を改めて得たいと思いますが、よろしいでしょうか。——ありがとうございます。

(3) 専門部会の進め方等についての意見交換

川田委員長 では、ここで正面のスクリーンをごらんください。お配りした資料5の部会構成が映っています。ごらんのように部会は今小さくくりとなっております。これから専門部会で審議され、テーマを絞ってまいります。まず、きょうのところは各部会メンバーが考える地域福祉部会とは、地域活性部会とはをお話いただき、専門部会の進め方、どのようなことを話し合っていきたいかについて御意見をいただきたいと思います。

まず、この並びはそれぞれの部会ごとでございまして、1つの部会に30分お時間をとらせていただき、その中でお1人ずつ御意見をいただきたいなと思っております。今まで話し合われてきたことで重複はするとは思いますが、改めましてそれぞれのお考えをここで述べていただきまして、この次専門部会で審議するときの参考にさせていただければと思っております。

それでは、まずしょっぱなに御意見をいただける方、いらっしゃいますか。まず地域福祉部会の方たちです。順番にお話をいただきましょうか。青柳委員からお願いいたします。

青柳副委員長 皆様、青柳です。よろしくお願ひいたします。

私自身、部会に2回ほど入った中でテーマの絞り込みということで、魅力を通じたまちづくりということで魅力発信とか限定したものではなくして、地域コミュニティだとか、防災だとか、全てこの中に人のつながり、絡みというものが一つの魅力となって、観光も含め、そういうもののくくりの中で地域のつながりから、魅力を宮前から発信できたらなど。その魅力の一つの中に、地域のつながりがあるとか、子育てとか、いろいろなコマがありますので、自分の考えている頭の中ではテーマがまだまだ絞り込めませんので、今後引き続き専門部会の中で皆さん方の意見をお伺いしながら、本件に立ち上げられるようなことで進めていきたいなと思います。それでよろしいでしょうか。

川田委員長 はい、大丈夫です。御自分がこれから地域福祉部会をどういうふうに絞っていくかということ念頭に置きまして皆さんの意見を聞いていただければよろしいので、思ったことをそれぞれが発言していただければ結構でございます。それでは老門聰子さん、よろしくお願ひします。

老門（聰）委員 済みません。まだ私は余り考えがまとまってないんですけれども、今まで活動した中では、20年間、青少年指導員ということで子どもたちにかかわってきた

ことと、それから、今民生委員として子育てとか、高齢者、いろいろな福祉についてのかかわりを持っていますので、その経験の中からはたらもう少しお年寄りと子どもたちが交流できるような場とか、あと子どもたちがもっと伸びやかに遊べる場づくりあたりができたらいいなと。まだこれぐらいしか考えてないんですけども。

川田委員長 ありがとうございます。それでは大久保委員、お願いいたします。

大久保委員 テーマが幾つもあるって、絞り込みというのは当然必要になろうかと思いますが、単独で切り離してこれだけというようなことが非常に難しいテーマなのではないかなと思っています。したがって、核になるテーマというものは当然絞込んだ上で決めなければならないんでしょうが、いずれもそれなりにリンクされるものがある、つながりのあるものがあるということをお必ず念頭に置いて地域福祉というものを考えていくことが大事でしょう。自分たちが今どの地点にいるのかという、その立ち位置というものははっきり定めて全体のロードマップの中で行動計画みたいなものが決められて、過去、それから将来へのつながりを同時に持てればいいなと思っています。メンバーの皆さんと活発な議論をしながら進めていきたいと思っています。

川田委員長 ありがとうございます。済みません、途中ではございますが、準備部会のごときに、せっかくそれぞれの部署の部長さんたちがお見えになっておりますので、何か委員の方たちがお話しくくださったことに対して、こういったアドバイスとか、今現状はここまでいっているよというものををお持ちでしたら、発表後に情報をくださればありがたいと思います。これは全員の意向でございますので、後ほどよろしくお願いいたします。それでは続きまして、小田委員、お願いいたします。

小田委員 前回の会議のときにもちょっとお話ししたんですけども、本当だったら部会のほうでお話しするのが一番いいんだろうとは思いますが、具体的に考えることができますのでちょっとお話しさせていただきたいと思っています。私は、審議対象テーマの希望で防災と高齢者福祉について書きました。防災については、6月5日に宮前区の防災推進員養成研修というのを受けてまして。そのときに講師の先生が防災かるたというのをつくっている区だとか地域だけがあるというようなこととお話しされて、ちょっと触れた程度だったんですけども、私はすごくそのことが心に残りました。そのとき講師の先生は、宮前区でもつくられたらどうですかと一言言われたんです。それでいいなと思いました。具体的には防災については、さまざまな地域や、マスコミとか、さまざまところで、いろいろな方法から、いろいろな側面からありとあらゆる情報提供をしていて、また提案もされていて、たくさんあるんですけども、その中で、宮前区独自の防災かるたなどをつくっていったらいいだろうなと思いました。防災かるたについては、いろは歌とか、百首の句とか、いろいろあると思うんですけども、これは部会のほうで皆さんのほうに私の思いを聞いていただきたいと思っています。

2つ目は、高齢者福祉について、審議テーマの希望に書きました。高齢者福祉につきましては、「高齢者110番」を私は提案しました。けさの朝日新聞の朝刊に「川崎・宮前区 お店や企業が協力」「子育て地域の応援だん」というのが大きく載っていたので、私は切り取って持ってきました。これは宮前区に住んでいる子育ての親御さんたちが、地域のお店とか企業とか施設など33カ所の協力を得て、「みやまえ子育て応援だん」というのが8月に本格的にスタートしたということで、「みやまえ子育て応援だん」というステッカーをその協力してくれるところに張るんです。そこに行くとミルクのお湯を提供してくれたり、ベビーカーでも入らせてもらえるとかです。私はこの記事が出るずっと前、今年度が始まったときに、「高齢者110番」というのを提案しました。これは「子ども110番」みたいなもので、それを高齢者に当てはめるわけですね。これはけさ出ているこの「子育て地域の応援だん」と同じ形で、高齢の方たちが外出したときに支援するシステムでして、そういったものがあつたらいいなというふうに思ったからです。これと同じで対象が高齢者というふうに考えました。また部会のときに提案したいと思います。

川田委員長 どうもありがとうございました。

事務局（岩下）申しわけございません、画面からは抜けてしまっておりますが、葛西委員と砂川委員がこちらの部会に御参加ということですので、きょうは御欠席でございます。

川田委員長 本日はお2人とも御欠席ということですので、滝本委員お願いいたします。

滝本委員 私も地域の福祉の中で防災というふうに考えたんですけども、防災というのは何か災害が起こった特別なときに動き始めるのではなくて、日常でその問題解決をどうしていったらいいだろうというふうに自分も困っていたら、きっと近所の中にも同じ悩みを持っている人もいるから、その人たちと自分の困ったことを出し合おうとか、例えば3月11日のとき私はこういう立場でこういう行動をしたけれどもあなたはどうでしたかと話すと、私の実感としては、子どもを持っている親っていろいろな場所において仕事だったりとか、幼稚園にお迎えに行かなきゃいけないとか、例えばエレベーターも止まっていたし、電話もつながらなかったときにどうしたかというのは、みんな相手の行動を聞きながら聞いているんです。そういうのを具体的に話す場になるとどんどん出てくるんだけど、ふだん日常の中では防災について話し合おうという機会はありません。ですから、日ごろ持っている人間関係の中でそういう意識を共有したいということです。

あともう一つは、子育てを伸び伸びしたいということや、高齢者の問題も、問題を抱えている人は一人で抱え込んだときってすごく苦しくなるんです。でも、一人で抱えてパンクしそうになるときに、いろいろな立場の人が混ざり合う。子育てで苦しいときに、いろいろな世代の人が来る自由な遊び場があつたら、そこに行けばほかの人の知恵をかりられるとか、伸び伸び育つ子どもを見ると、この遊び場がいいというの

は大人の目を肥やすんです。危険があったり、リスクのある遊びというのは、ここまでは子どもの能力があるとか、大人はここまで許してくれるんだとか、大人は危険だと言いながらも冒険させてくれるとか、おじいちゃん、おばあちゃんが昔はこうだったよと話したりしていると、そういう大人の姿を見て、子どもも、高齢者というのは子どもみたいにぴょんぴょん跳ねたりできないけれども、ゆっくり歩くという動きがあるんだなというふうに、子どもの目も肥えるんです。私はその両方がうまく交わる機会がふえていったらいいなと思います。

川田委員長 ありがとうございます。それでは椿委員、お願いいたします。

椿委員 滝本委員と似たような形になるんですが、私も母親の立場として、子育てをいろいろ経験した中で、子どもが伸び伸び育つ環境というのはすごく必要だなと思っております。また、かつ母親というのは、その子育てに関していろいろなことで悩んで、いろいろすることも多く、その中で、地域の方、周囲の方のつながりによって助けられることというのは、私自身の経験からしても多くございました。また、私どもの世代になると、今度親の介護ということも出てきます。そうした中で、子育てではなくて、今度その後には、介護についても地域のつながりなどによって、皆さん協力しながらやっていくことは大切なんじゃないかと思っています。それにつながり、今度防災に関して、いざというときに、地域がつながっている、お互い助け合う人たちが出てくることによって、生活が大変になったときにもお互い助け合う環境ができてくるのだと思っています。自然にそれができる環境ができればいいと思うんですけれども、区民会議でその一助となる発信ができればいいと思っています。

川田委員長 ありがとうございます。中里委員、お願いいたします。

中里委員 項目が防災、地域福祉、高齢者、子育て、世代間交流、地域コミュニティといういろいろあるんですが、この根底にあるものというのは、今椿委員も発言されたように、地域住民相互のつながりが大切ということだと思っております。ですから、このことを大事に、どの項目ということではなく、どうしたらつながりができるかというようなことを話し合っていければと思っています。それと、つながりといっても、もう一つ専門部会Bのほうに入っているんですが、魅力発信と愛着強化ということですね。つながりを強化するには、郷土愛とか、地域に対する愛着を強化して、それを接着剤として人と人とのつながりを強化する、固めていくと、そんなことを考えていくのではないかと思います。そうすると、災害時、それから地域に何か問題が起こったときも、スムーズに住民が解決できるのではないかなと考えます。今、季節柄、盆踊りということでした、私は野川に住んでいますが、先週末に盆踊りがありました。実は野川音頭というものを2年ぐらい前につくりまして、去年始まって、ことし2年目ですが、野川音頭となるとやっぱりみんな燃えますね。それと、やはり川崎踊りですね。それから宮前音頭と。地域のこういったものが流れると、やっぱり地域、いい

などというふうに感じました。つい最近感じたことなのですが。

それから、ちょっと長くなるんですが、また野川ということで話しますと、野川が宮前区野川と高津区野川と2つに分かれちゃっているんですね。前からお話ししているんですが、宮前区役所と間隔があるということで、独自に福祉とか発達しているというような感じが私もするんですが、最近ちょっと変化を感じたのが、福祉講演会とか、研修会とか、福祉祭りとかいうときに、お忙しい中区長さんが見えになって、先々月になってしまうかもしれませんが、終活の研修会があったんです。私は行けなかったんですが、その反省会のときも区長さんがお忙しい中来ていただいたというようなお話を聞いて、野川の住民も、何かあったら宮前区の行事に参加しようかなとか、何か困ったことがあったら宮前区役所に行けばいいかなとか、こんな意見も聞かれるようになりまして本当にうれしく思っております。先ほど地域住民のつながりが大事だということをお話ししましたが、それに行政も密にかかわっていただけるとやっぱり心強いなと思います。そんな地域包括ケアシステムが構築されればいいなと思っています。済みません、長くなりました。

川田委員長 ありがとうございます。それでは中村委員、お願いいたします。

中村委員 今、中里委員が盆踊りのことをおっしゃってまして、馬絹も盆踊りを毎年しておりますけれども、年々踊る方が少なくなっています。私は文化協会出身なので、もっともっと伝統文化——盆踊りも文化に入ってくると思うんですけれども、小さいお子様とか、高校生、中学生などが入ってくれたらいいなというふうに思っております。

あと私は民生委員をしておりますので、子育て、高齢者、地域福祉と一連で申し上げたいと思うんですけれども、自分が非常に足の痛いときが一時あったんです。そのとき、お医者様の中には、高齢化だからしょうがないというような方もありましたけれども、私なりにいろいろな本を買って読みましたら、老化であっても筋肉をつければ非常によくなるということで、私はA型人間ですのでそれをまじめにやってみたんです。また、そのような病院との出会いがあって、今一生懸命通わせていただいております。おかげさまで、馬絹というところは伝統がありまして、この間も雨乞いということで毎年8月1日は大山へ行って雨乞いをするんです。若い方が5人登りましたけれども、私もそれについてロープウェーまで階段をスムーズに登れましたので、やはりそういう知識を、高齢者とか、いろいろな方に教えながら、地域福祉とかをやっていくということですね。あと実際、防災になったときに、足の動けない方はどうなるのか、あと赤ちゃんを抱えている方は大きな地震が来たらどのようにしたらいいのか、そういうシミュレーション的なことを少しお話しし合ったらいいのではないかなと思います。何しろ本当に高齢化が進んでいまして、病院に行くとき足、腰の悪い方が本当に多いです。ですから、いろいろな知識が伝えられるような場所、あるいはお話

しするところがあつたらいいと思います。私自身は知らない人に声をかけてお話しするというのは余り得意ではないもので、これからは少しお話しして、自分のたどった足の治し方などをちょっと教えてあげたらいいのかなと思います。ちょっと長くなりますけれども、そういうことも地域コミュニティとつながり、町会とか、保護司とか、いろいろな部がありますけれども、皆さんで一体となって宮前区をしっかりとすばらしい宮前区にしていけたらいいのではないかと思います。よろしくお願ひします。

川田委員長 ありがとうございます。皆さん方それぞれ発言していただいたんですが、お時間が少々ございますので、ここで宮前区役所のほうの保健福祉センターの松浦担当部長さんがお見えになっていると思いますので、福祉のことにつきまして何か御意見がありましたらお聞かせください。

事務局（松浦） 地域みまもり支援センターの松浦と申します。前回の会議は、済みません、ちょっと所用で欠席させていただきました。本日2回目から参加させていただくことになりました。申しわけございませんでした。本年度4月1日に新しく全区にできました地域みまもり支援センターの担当部長を拝命させていただいております。地域ケアをどうしていくのか、どうすればいいのというふうにおっしゃっていただいて、宮前区はそういった意味で市民の方々のお力をしみじみと感じている毎日でございます。そういった中で、どうすればいいのかということこれから私たちが伝えていかなければいけないというところで、先ほど中里委員がおっしゃっていた、本当にそのままのことなんですけれども、区の中にある、いろいろな皆様の活発な活動の一つ一つつないで、そういう活動を必要としている方々に御紹介して、そうやって地域の人とつながればいいんだな、そこに私は参加すればいいんだなという人を次々ふやしていったり、あとはそういった活動がない地域に新しくカフェとか、居場所をつくっていくのを助けていただくようなお役をしていただければなというふうに思っております。

みまもり支援センターが4月にできて、4、5、6、7とまず4カ月たったところなんですけれども、初めは新しい組織でございましたので、本当に立ち上げるだけで精いっぱい、何をやるというところまではいかなかったんですけれども、ようやく先月ぐらいから地区担当保健師を各区に設置して、この町は私が担当しますという保健師ができましたので、それが各町会さんや、地域に出掛けていっていろいろな活動にお邪魔させていただいている状況です。そういったところで、そのグループの活動をほかの方々にも伝えたりするのが、一つ保健師の役目かなと思っています。地域でのお悩みを聞いたりとか、あとは、そういうところであればこういうところがありますよというふうにご紹介するのが保健師の役目かなと思っています。今そういった活動グループの見える化といいますか、最終的にはホームページに載せて、どなたで

もいろいろなグループの活動が一目してわかるようなマップに落とす作業をしようと思っております。さしあたり防災の大きな地図がありますので、そこにまずは、紙ベースですけれどもいろいろなシールとかを張って、来ていただいた方が見てすぐわかるようなものをつくろうかなと思っております。

また、今年度の取り組みといたしましては、地域づくりをさらにもっと深めていくということもありますけれども、個別支援の強化ということも一つ言われておりました、支援の必要なお子様について、それを守るというような仕組みも、私どもの組織ではやっております。地域包括ケアシステムは国の中では高齢者だけの施策ですけれども、川崎につきましては皆様も御存じのように、子どもから高齢者まで全ての方を対象としておりますので、私どもの部署は子どものそういった個別支援——もちろん高齢者についてもそうなんですけれども、個別の支援も地区担当保健師が、この人については私が相談に乗りますよという形でやっている状況でございます。

また、独自の取り組みといたしましては、7月になります、聖マリアンナ医科大学と、それから田園調布大学は麻生区の大学なんですけれども、私どもの地域福祉計画という計画があるんですが、その計画づくりに委員長として御参加いただいている大学の教授が田園調布大学にいらっしゃる関係で、その3者で包括協定を結びました。福祉に関すること、医療に関することを、大学のお力もかりながら、宮前区の地域づくりに取り組んでいきたいと思いますという協定でございますので、その協定に基づく事業も今年度行う予定でございまして、医療に関する、福祉に関する意識調査をこれからやっていこうと思っております。また、その際御協力いただきながら、結果については、皆様の生活に役立てられるような還元の仕方を考えております。

また、ワークショップと言いまして、既に川田会長やほかの委員もなさっていらっしゃる、稗原ゆ〜ずや、土橋カフェのような、本当に地域に密着した活動をしていらっしゃる地域の活動を、この地域だったらいけそうかなみたいなところに広げていただけるような、そういった形でのワークショップを現在考えているところでございまして、川田委員長や、ほかの委員に御協力いただきながらワークショップを開催できればと考えているところでございます。また、結果につきましては、御報告できる機会がありましたら設けさせていただければと思っております。

長くなりましたが以上でございます。

川田委員長 ありがとうございます。宮前区役所関係部署ではこういった動きがありますということを皆さん方にお伝えしていただきました。役所の立場、それから住民としての立場では、出される課題というのは違ってくると思いますし、手がけられる課題もまた違うと思っております。要は、私たちが出すことに対して、こういうようなことをやればとても安心して生活できるんだということを提案していただければ、そこで役所の人たちはそれにもう少し肉をつけ、大きくつなげていくというような感じ

になります。この2つの役割で一つのテーマをいいものにしていきたいなと思っております。ありがとうございました。

それでは続きまして地域活性部会です。まず、影山副委員長からお願いいたします。

影山副委員長 地域活性というテーマは仮だということでした。それで、私の認識としては、上の福祉との対比で考えますと、福祉の場はどちらかと言うと、きずなとか、コミュニティとか、人の触れ合いとか、エモーショナルな部分を物すごく大事にして、それで一つの場をつくったりして一つのムーブメントに持っていくような、そういうイメージです。ただ、それを部会のメンバーがどう進めるかということです。したがって、どちらかと言うと短期的なところから、今の保健福祉行政の方の援助をいただきながら動くことになるのかなと。それからもう一方の地域活性化ということで、私も前回ちょっと申し上げたんですけれども、川崎市民にアンケートしたところ、宮前区は住みたいというのは低いと。これは本当かどうか。しかし、これは今はそうだと。これがまたそのままいくということではまずいのではないかと。では、今の住み続けることの阻害になっているというか、邪魔になっているものは何かということでアンケートを見ますと、アクセスとか、交通とか、不便とか、ほかの区は全て地理上も平坦でしょうとか、そういう言葉が宮前区の中で特異に出てきている認識です。ただ、その問題については、福祉の場合のエモーショナルな部分だけではなくて、これは非常に難物で、実はそういうものを大所高所から考えていくのは、前回も出たように交通問題を初めとしてずっとやってきて、もうこれは我々は避けたほうがいいんじゃないかというぐらいな話なんです。私も確かにそうだと思う。それを真正面にやるんじゃなくて、何か社会実験でバスを一つでも転がすというぐらいなことをしないといけないのではないかというのは、実は市民アンケートで既に出ているということでして、これが私も気になるというところです。

それから、誰に聞いても宮前区は緑がいいねと。世田谷のほうから来た人も、結構緑があるねと。それが宮前区の魅力です。ただ、この宮前区の魅力をこのまま保持していけるかどうか。各論で細かく言いますと、今残っている緑の問題、これは2025年問題——高齢化の問題、相続税の問題と、そんなにたやすくはない。そうすると減るということ。減るというのは、市のほうで買い取って公園にしたり、緑を保存していかなければならない。そのためには、一つの提案もしなければいけない。だから、じっと黙ってはいちちょっと難しい問題がある。したがって、これは中長期的な問題としてあるのかなと。住み続けていくとなった場合、足腰も弱くなっていくというものもあると思います。

それからもう一つだけ最後に言います。田園都市線周辺の商店街の方に聞いてみると、人口は増える、中央マンションあたりもどんどん買いが入っているという意見が

一方にあります。つまり、ここは2025年問題ということでは、僕らとしても頭に入れておかなければいけないのではないかと。つまり、若い人たちがさらに今後ふえてくるかもしれないということも、今後の活性化を考える上で必要なと思います。長くなって済みません。

川田委員長 ありがとうございます。それでは荒川委員、よろしくをお願いします。

荒川委員 私は、42～43年前ですけれども、宮前区に来まして一そのころはまだ区ではなかったのですが、こんなに緑が多いところと驚きました。裏に畑があって、個人に貸すよということになって、生まれて初めて土を触ったというような、町なかで育った者にはとてもありがたい場所でした。それ以来、畑に取りつかれて、何年かすると、地主さんの関係で、ここは宅地にするよ、といわれ次に、JAのふれあい農園をお借りしたけれども、やっぱり何年かしたらここはと。一番長くて13年、皆でわいわいやっていたふれあい農園が解散になって、それ以来、またいろいろなところでお借りして、今また菅生のほうにグループで畑をお借りしていますが、個人のものだから、緑は守り切れるかどうかということにはわかりません。農地というのはいろいろな夢が育つようなところだと思います。これは福祉、経済、いろいろな方面で農業がとりあげられています。宮前区は緑の宝庫と言われて、農地面積は川崎で1番多い区だったのが2番目の区になりました。今度3番目になるのではないかと、そういう心配をするような次第。きのう、おとといと長野県の上田と佐久平のほうに行って、帰りに八ヶ岳にも寄ってきましたけれども、そこの農産物直売所のより宮前区の直売所で買ったもの本当に新鮮でおいしいです。何とか農家さんをお助けして、農地を残していけないのかなと思います。そういう私たちのお願いを届けに、ボランティアの立場でJAとか、振興センターとかに伺うのですが、どの活動で来たのかと問われることになって。一本化できるものでもないんですけれども、いろいろなグループがまとまって緑を守る活動のできる、それのお導きが区役所でできたらいいなと思います。横浜では、市民がつくった農産物を、区役所の中の直売所でやっているというのを新聞で見ました。そういうファーマーズマーケットがこの区役所近辺にあれば、また人が集まるのではないかなと、そういう夢を抱いています。

部会が2つに分かれています。きょうは特養ホームにも仕事絡みでお訪ねしたんですけれども、その課長さんがおっしゃるには、これから寝たきりがどんどんふえますよというお話を聞いて愕然としましてね。幾ら介護保険を払ってもどうなることでもないで、将来現役でいられるようなシニアの活性化システムができたらいいなと思います。農家のおじいちゃまで90歳を超えた方がまだ元気でお客さんを相手にしているのを見ると、私たちも寝たきりにならないように、何とか頑張る手だてを考えていきたい。2つの部会ができたというのはすばらしいなと思います。よろしくをお願いします。

川田委員長 ありがとうございます。それでは、老門泰三委員。

老門（泰）委員 私は出身母体の立場上、地域包括ケアシステムの中で、特に住民が取り組むべきテーマは、やっぱり互助と自助の世界なんですね。それで、互助については、先ほど松浦部長さんもおっしゃった——私は土橋カフェをやっているんですけども、これは立場的にそういうカフェをやったり、それから認知症サポーター研修を幅広くやって——これは認知症というのは障害の一つなんですけれども、それを知ることによって、隣の人に思いやる心が育まれるのではないかと思っ、立場的にいろいろやっているんです。それから、自助のほうは、公園体操とかいろいろ拡大しているんですけども、先ほど小田委員がおっしゃった「高齢者110番」に絡んで言えば、社協でも、例えばもうちょっとトイレの数を——いろいろな企業なり、ガソリンスタンドなり、いろいろなところでトイレを貸してくれるところにマークをつけて、散歩道の中で、ここに行けばトイレがあるよと。それからこの前、カフェの相談に都筑区の方が見えたんですけども、そうすると都筑区では万歩計を高齢者に配って、スポーツショップとか、コンビニとかに行くと、カウントして、トータルの歩数によって商品が出るらしいんです。そういうシステムがあると。自助というのは自分で健康を維持しましょうということ、そういう手助けをするために、もうちょっと気軽にあちこち散歩して、その散歩の障害になるようなもの——1つはトイレかもしれませんし、それからちょっと休憩する場所とか、そういうものをつくっていくことによって自助をより手助けすることがいいのかなと。そんなようなことを考えました。よろしくお願ひします。

川田委員長 ありがとうございます。佐籐委員、お願いいたします。

佐籐委員 もともと僕がこの区民会議にかかわらせていただいたきっかけが魅力探訪のイベントだったんです。結局、地域の人たちは自分の地域の魅力を知らないことが多くて、こういうベッドタウンだと、昼は都内に働きに出て、寝に帰ってくる人って結構多いと思うんです。僕は馬絹に住んでいるんですけども、あの辺の最近の状況で言うと、ドン・キホーテが撤退したりとか、その近くにリンガーハットがあったんですけども、それも撤退し、これはたまたまですけども、宮前平駅がエレベーター設置工事の関係でお店が全部閉まっちゃっていて、お店がなくなると町の色がなくなってくるんですよ。宮崎台駅の近くには巨大マンションが建っていて、さっきもこれから人口がふえるという話がありましたけれども、これからどんどん住む人はふえていくと。ちょっと心配なのは、人はどんどんふえていくんですけども、お店が撤退し、ドン・キホーテの跡地はマンションになるんじゃないかと僕は勝手に予感しているんですけども、そうなっていくと家とマンションばかりで、商店がない地域に変わっていく。それも地域の魅力が減っていっちゃうんです。せつかくこれだけ人が住んでいるのに、平日はもちろん都内に働きに行って人の影がない。休みの日も、魅力

がない地域だったりすると、遊びに都内に行こう、横浜に行こう、鎌倉に行こう、宮前区には特に楽しいところはないからと。そうなっちゃうのがすごく怖くて、そうするとどんどん人が減っていっちゃうし、それこそ地域衰退という心配な要素もなくはない。そうすると、余り声高に発信するというよりも、地域の人がちゃんと自分たちの住んでいるところで、休日はお散歩して、遊んで、お買い物もして、御飯を食べて1日楽しく過ごせる、そういう魅力があるんだよということを知っていれば、地域の中で1日生活できるし、そうするとここにお店を建ててもちゃんとお金が回るんだなということでお店とかもだんだん復活していくし、前みたいに住宅だけではなくてカラフルな町に戻っていくと思うんです。僕としては、魅力発信、愛着強化というところを軸に考えています。しかし、審議対象テーマの例で、交通、住環境、魅力発信、産業振興、緑・農、その他、こうやって並べると、どれも重要だし、どれもリンクしているなという感じはしています。絞り込みをしようという話にはなっていますけれども、絞り込みつつも、それぞれ重要で、リンクを見つけつつ皆さんとお話ししていただけたらいいかなという感じです。

川田委員長 ありがとうございます。

中村委員 ちょっと済みません、ドン・キホーテのことなんですけれども、人のお話ですと、あそこに物すごく大きなドン・キホーテができると聞いています。

佐藤委員 そういうわさも聞いたんですけれども。

中村委員 私はそういう話を聞いておりますけれども、信ぴょう性はどうか……。でも、もっと立派なドン・キホーテができるというお話が入ってきております。

川田委員長 貴重な情報ありがとうございます。田辺委員、お願いいたします。

田辺委員 ここに6つテーマがありますけれども、私は削れると思っていますし、絞れると思っています。私の母体のまちづくり協議会、前身の区づくりプラン推進委員会を含めて約20年間活動を行ってまいりまして、この6つのテーマもそれぞれいろいろな関係があって、多くの市民活動団体さんとともに活動を行い、また行政の方々の御協力を得て、かなり解決できた問題もあります。まず交通ですけれども、まちづくり協議会交通専門部会では20年間活動を行いまして、皆さん御存じの虎の門病院分院のバス路線をつくることができましたし、鷺沼からセンター北へのバスをセンター南に延ばすこともできたりと、そういう実績はあるんです。ところが依然として、白幡台とか、有馬・東有馬のほうの路線が、実験もしましたけれどもうまくいかない。私の個人的な意見としては、川崎市バスとか、東急バスさんはあるんですけれども、要するに採算が合わないとやっぱりだめなんです。とはいってもそこであきらめていいということはないんですけれども。あとは個々の地域で住民の方々がどれだけ一生懸命運動をして盛り上げるかに尽きるかなと思っています。

次に、住環境ですけれども、まちづくり協議会環境美化委員会で10年間取り上げてやっ

てきたのは、不法ごみの撤去。これは我々の努力と、ごみがあるオーナーさん—企業もあるし、団体もあるし、個人もありますけれども—オーナーさんの御協力によって、今日宮前区における不法ごみは、ほぼ完全になくなりました。ただ、それ以外の住環境の問題はいろいろあると思います。

次に、魅力発信ですけれども、魅力発信については2年前も私はここで申し上げましたが、既に宮前区の魅力については、いろいろ御異論もあると思いますけれども、非常に多くのパンフレットが行政だけじゃなくて、観光協会さんや、市民活動団体さんや、我々まちづくり協議会もそうですけれども、あって、またホームページも非常に充実しているんです。ですから、このところは情報発信は不要と思っています。

次に産業振興ですが、宮前区はベッドタウンでありまして、農業は別にしても、果たして工業など産業振興する必要があるのかという疑問は依然として私は持っています。ただし、先ほど佐籾さんがおっしゃったように商店会の問題はあります。宮前区内には24の商店会があると言われてはいますが、ほとんど衰退しています。そして、24の商店会がかつて連合会を組んでいたんですけれども、どんどん脱退して、今連合会に入っているのは6つしかない。というふうな惨憺たるありさまで、これはゆゆしい問題だと思いますが、これについて今のところ私はわかりません。

次に、緑と農の問題ですけれども、これもまちづくり協議会では長年取り組んでおります。皆さん御存じでないかもしれませんが、約50の農家さんが直売所をやっています。まちづくり協議会では、直売所マップをつくったり、それから年に2回程度、「農家巡りウォーキング」と称して、区民の皆さんを農家さんに連れて行って、農家さんと接する場を設けるとか。以前から宮前の農家さんは地域との関係づくりに熱心な方が多くて、学校の教育の一環とか、そういうこともかなりなさっていた方が多いんです。最近、宮崎台の近くにもJAの直売施設ができましたけれども、社会運動として今いい感じで動いていますから、格別この区民会議で取り上げなくてもよろしいかなという気持ちがあります。

そんなことで実は私が一番大事だと思っているのは、その他の中にある過去検証ですね。これまで5期の区民会議ではさまざまなテーマを取り上げて提案をしてきたんですが、その中においては、提案はされたけれども実施されなかったものもある、実施したけれども途中でポシャったものもある。この辺のところを一度きちっと検証したほうがいいのではないかと思うんです。確かに区民会議は提案までが仕事ですから、あとは行政任せですね。それが取り上げられるか、取り上げられないかは区民会議では分かりません。また行政さんも、一生懸命やって取り上げようとしても、実施してくれるところが見つからないということも実際にあったわけです。このところをどうするか。提案から実施もしくは不実施に至るまでのプロセスはどうなっているのか、これはきっちり検証しないとイケない。今後のこともあるのでこれはどこかでや

らなければいけない。ここでできないのだったら、第三者委員会でもつくったらいいと思いますけれども、きょうは参与の議員の先生方がお見えですから、後でこの点についてはぜひお聞きしたいと思います。

川田委員長 ありがとうございます。山田委員、お願いいたします。

山田委員 委員の山田です。2期目ということでやらせていただくことになりましたが、今御指摘があったように、この前の論議でも、私は過去の勉強が余りできてないものでどうということになるのかよくわからないんですけれども、今田辺委員がおっしゃったように過去の問題もある程度整理した上で地域活性化の問題を取り上げるのは非常に意味があるのではないかと考えております。

それから、既に皆さんからいろいろ御指摘がありましたように、宮前区の弱点は地域格差ということだと思います。向ヶ丘地区のスーパーが潰れるというのは非常にきつい話なんですね。それで、田園都市線沿線は二子玉川に楽天の本社が来たということで、鷺沼はNHKの寮が再開発で大きな分譲マンションになるとか、いっぱい建っているんです。それで、このままいくと格差がどんどん大きくなってしまいます。しかし、これは区民会議のテーマには不相当だと。これはこの前部会のとき申し上げたんですけれども、不相当を覚悟の上で、鷺沼の駅周辺の再開発に、地域格差を縮めるような提案というのでも考えられるのではないかと考えています。これは非常に難しい問題だと思います。

それから住環境ということでは、非常に山坂の多い地域で、お年寄りの問題もあって、買い物が非常に不便になってきています。そういうのをうまく解決できるような地域実験みたいなものができればなというふうに考えています。

それから、産業振興の問題、そして農業の関係ですけれども、農業については、宮前平駅のそばの安藤さんの農園も今度閉じましたね。あそこはキウイフルーツのすばらしいブランドだったんですけれども。そういう傾向はどんどん出てくるので、何らかのバックボーンの一つに産業振興というのは必要で、佐藤委員はすばらしいイラストレーションを描かれるんですね。それで、産業と言うとすぐハードのほうに行きますけれども、日本の中のこれからの活性化はやっぱりソフト産業みたいなもの——アニメ産業とかいうものが一つの核になるのではないかと。特に宮前区で、地域のハンディキャップとか、いろいろなものがある中で産業振興と言うと、そっちのほうの施行ですね。そういうものへの補助金、それからそういうものへの若い人の活動環境を整えるというのも一つの狙いではないかと考えています。よろしくお願いします。

川田委員長 ありがとうございます。それでは最後に、山部委員お願いいたします。

山部委員 山部と申します。私は宮前に住みまして33年になります。先ほどの佐藤委員じゃないですけれども、朝早く家を出まして、一杯飲んで帰ってくるので大体12時近く、休日のごろ寝をしていると。そういう生活を約40年間やって、退職して明日から

何をやるのかなと思ったときに、家内は地域のことでかなり忙しくやっておりました。その代わり私は、会社の人間と取引のある会社の人間しかほとんど付き合ってきたので、結局どこへも行くことができない。そこで市役所でうろうろしたときに、宮前区観光ガイドの会という会がございまして、そこに応募しまして、町歩きをしようということで、もう3年ほどやっておりますけれども、最初るとき、私は家から宮前平駅までしか知らなくて、ほかのところはほとんど知らなかったんです。「人が好き 緑が好き まちが好き」というのは宮前区のキャッチフレーズですけども、非常に緑の多い区だと私は思っております。水沢の森もすばらしいです。それから菅生ですね。菅生の浄水場もかなりきれいになりました。おととい見学に行っていました。東京のほうはかなり水不足だということですけども、これで神奈川、川崎の水は万全だなと。やはり我々が知らないところ——先ほど田辺さんがおっしゃっていましたけれども、パンフレットはいっぱいあるんですよ。だけど、そこに行って、どうなっているかというのは皆さん物すごく少ないんですよ。そういうことをお手伝いするということで今町歩きをやっております。それに、宮前区にはユニークな会社もいっぱいあります。菅生にシーボン化粧品という会社があります。この会社は本社が前は六本木にあったんです。六本木からわざわざ川崎の宮前区まで来た。何ですか？と聞くと、この緑に惚れたと。だから、これだけすばらしい緑のあるところは一人でも多くの方に見てもらいたい。行って、いろいろな話を聞きたいと。そういうことを続けまして、人のつながりを多く持って活動していきたいと思っております。

川田委員長 ただいま全員にそれぞれの御意見を述べていただきましたけれども、この御意見を参考にさせていただきまして第1回の専門部会に臨んでいただければと思います。それで、ちょっとお時間がありますので、地域活性部会——ただいま発表していただきましたけれども、宮前区のほうで情報があるようでしたら挙手をして御発言いただけますでしょうか。

区長 今、田辺委員さんと山田委員さんから、過去に提案したことについて今はどうなっているのかというようなことも一度検証の場に乗せてみてはというようなことがありました。私もそれも必要だなというふうに思っています。過去に提案していただいて、例えば30周年記念で「みやまエカルタ」というものを区民の皆さまが区全体でつくっていただいて、そういったものの普及ということも今もやっていて、ありがたいことに今も皆さまが買ってきてくださっている状況があります。そういった意味で、ずっと続けていきやすい事業と、なかなか継続的には難しかったというようなことがございます。そういった検証は、多分この期のメインテーマとしてやっていただくには少しもったいないのかもしれないというようなことをちょっと思いました。ただ、過去の提言がどうなっているかということについては、区役所のほうからも一度資料にして皆様にお示しさせていただきたいと思いました。よろしくお願ひします。

川田委員長 ありがとうございます。それでは若干早く終わらせていただきます。本当に御協力ありがとうございました。

本日お忙しい中、参与の方に御参加していただいております。今の皆さん方の御発言を聞いて、その中で何か情報などございましたら御提供いただければありがたいと思います。それでは、あいうえお順で織田議員からお願いいたします。

織田参与 総括的に少し意見を言わせてもらってもいいですか。

川田委員長 結構でございます。

織田参与 ありがとうございます。改めまして織田勝久でございます。いろいろお話を聞かせていただきまして、改めていろいろと勉強になりました。ありがとうございます。

それで、特に残っておりましたのが田辺さんと山田さんがおっしゃった交通インフラの問題です。影山さんもちよっとおっしゃいましたけれども、誤解をいただきたくないんですが、お金を払ってサービスを得られると。非常に乱暴な言い方で恐縮ですけども、例えば子育て支援とか、高齢者施策とか、お金を払えばサービスが受けられると。幾らお金を払ってもサービスが受けられないというテーマはすごく大事なのではないかと。そういう意味でいくと、やっぱりインフラ整備だと僕は思っています。特に宮前区の特徴は、山坂が多くて高齢化の進捗が高度でと。そういうことの中で、市民の皆さんが自由に区内、区外も含めて移動ができる、まさに移動する権利という部分をしっかりまちづくりの中で中核に据えて進めていくことが大事だろうと。これは私だけじゃなくて、宮前区選出の議員はみんなそういう問題意識を持って常に議会活動をやらせていただいておりますけれども、その中でのネックは、さっき御指摘いただいたようにいわゆる採算性という議論なんですね。採算がいけるのであれば、とくに民間バスも含めてバスを走らせているわけで、それができないところをどうやってクリアしていくのかと。そういう議論をやっぱり進めていく必要があるだろうと。

今鷺沼駅前再整備という御議論もいただきましたけれども、私がこのテーマを一生懸命やらせていただいているのは、まちづくり協議会の皆さんにもお世話になりましたけれども、有馬・東有馬地区でコミュニティ交通、コミュニティバスを走らせたいと。地域交通を何とか実現させたいと。そういう思いが強くて、地域の町会、自治会、商店会の皆さん、またこれは超党派でしっかり取り組んでやってきたけれども、最後は採算性の問題で走らないということになるわけですね。採算性の問題で走らないということと、あともう一つ悔しいのは、鷺沼の駅前に新しいバスベイをつくる余裕がないと、そういう言い方なんです。であれば、鷺沼の駅前にバスベイをつくれればいいじゃないかと、そういうふうに思いまして、鷺沼駅前再整備という議論もさせていただいて、おかげさまでことしと来年で粗々計画をつくるというふうにはなったわけなんですね。

私は有馬に住んでいますが、とにかく高齢化の進捗はすさまじいですよ。特に鷺沼の駅に行くのに、昔歩いた人たちがみんなバスに乗る。一駅、二駅のバス区間でバスに乗るんですね。そのような現状も見ていますので、とにかく地域交通の課題について、地域でさまざまな生活をされ、また知見を持っておられる皆さんの御議論というものを進めていただくのは必要だろうと。市民が頑張ってもできない部分は、やっぱり行政が支えるというのは当たり前のことですから、そういう議論をぜひしっかりやっていただくとありがたいのかなど。個人的にはそんな思いを持っています。余り長くなっちゃうとあれですので、これだけ特に言わせていただこうと思ひましてね。やっぱり地域交通は皆さんで頑張りたいなと私は思います。よろしくお願ひします。

川田委員長 どうもありがとうございました。それでは渡辺参与、お願ひいたします。

渡辺参与 きょうは貴重な話、ありがとうございました。私は皆さんの中から出ていた防災の問題、これからそこは大事だと思います。実はこの間、議員の全体の研修の中で防災の研修をしたんですよ。その中で、じゃ議員は何をするのか。今までは、防災の面で議員はいらんんじゃない？みたいになんて言われていたんだけど、やはり議員も必要でしょうという話で。そのときは市役所に集まるという話だったんだけど、私は区役所じゃないかなと思うんですよ。たまたま区にいたら、やっぱり区役所に集まって、議員としては皆さんの安全をどうつくっていくか、それから被害はどこにあるんだとか、そこを全体で共有化していきたいなと思ひまして。きょうはお話しする機会があつてよかったなと思ひました。ありがとうございました。

川田委員長 どうもありがとうございました。それでは矢沢参与、お願ひいたします。

矢沢参与 改めまして市議会議員の矢沢と申します。きょうは皆さん一人一人の御意見、そして課題の認識を改めて聞かせていただきまして、大変多岐にわたるなということで勉強になりました。私から幾つかコメントさせていただきたいなと思ひしております。専門部会Aの地域福祉部会のほうで特に気になった部分は、椿委員と中里委員が特に言っておられたんですけども、地域住民のつながりをどうやって強くしていくかというところが専門部会Aの根底にあるというような意識を持たれていて、私も本当にそうだなと思ひています。防災にしても、日ごろの人と人との付き合いをどうやって強化していくか。近所も含めてですけども、顔見知りの人をどうやってふやしていくかと。そういった取り組みの中で、私は過去からいい取り組みだなと思ひているのは、稗原にある稗原小学校で毎年行っている防災キャンプというものです。これはPTA、おやじの会という親の会が中心になってやっているんですけども、子どもたち400人含めて体育館に寝泊まりをして、その前後で防災訓練をやっていくというもので、かなり大きな規模でやっています、これがもうすぐ10年目でしてずっと続けているんです。そうすると、稗原地区の親御さんたちの世代が一人一人顔見知りに

なって、子どもたちも顔見知りになって、子どもさんたちが自分の親だったり、相手の親のことを話したりして、地域のつながりがより強くなっていく。そういう取り組みは非常に参考になると思います。

あと専門部会B、地域活性部会ですが、こちらは私は、緑の取り組みというものに注力している部分もありまして、特に気になったんですけれども、川崎市内に公園というものがたくさんあります。公園緑地が今735ヘクタールあります。そして緑というふうに分類されるような公園緑地と山林原野と、あと農地なんですけれども、公園緑地が700ヘクタール以上、山林原野も500ヘクタールぐらいなんです。農地というのは実は600ヘクタールぐらいあるんです。ただ、この農地は1985年から30年間で半分以上です。1985年のときは1200ヘクタールぐらいあったんですけれども、今はそれぐらい減ってきてしまっている。そういった部分で今各委員にも課題認識があったとおりのいろいろな問題が出てきている。その部分で宮前区の大きな特徴でもある緑をどうやって守っていくかというのも一つのいいテーマだなと思っています。

さらにバス交通、交通のインフラの部分も話に出ました。稗原含めて今大きなテーマになっているのが、超党派で川崎市議会の中でもテーマになっているんですけれども、横浜市営地下鉄の延伸。これが今あざみ野から新百合ヶ丘ということで正式に国のほうも着手の話が出まして、横浜のほうで主体になって進めていく、川崎市の中でもどういったルートでやっていくのかについて専門的に検討していくフェーズによいよ入ってきているという認識でございます。宮前区は投資的費用がなかなか投下されてこなかった地域でございますが、鷺沼の再開発とあわせてそういったところも皆様の耳に入れておくべきなのかなと思って今発言をさせていただきました。非常に大きな課題もたくさんありますけれども、皆様一人一人の意見によって勉強になりました。きょうはありがとうございました。

川田委員長 ありがとうございました。それでは県会議員の佐々木参与、お願いいたします。

佐々木参与 県議の佐々木です。少し遅参をしまして皆様のお話全て聞けなかったこと、おわびを申し上げます。先ほど田辺委員のほうからも過去の区民会議のというようなお話もあって、今回6期ということなんですけれども、今回の地域福祉部会のところでも、前の5期のところで作られた「ほっとやすらぎステーション」みたいなものを活用しながら、どうやって地域の交流を深めていくのかとか、あと地域活性部会のほうでも、前回つくった「みやまえ魅力スポット寄ってこ！ガイド」みたいなものを使いながら魅力をどうやって発信していくのかみたいな形で、過去皆さんが御議論いただいてある程度形になったものを使いながら、この6期がさらにいろいろな意味で話が発展していき、さらに盛んになっていただければすごくうれしいなど。最後のほうだけでしたけれども、お話を聞かせていただいてこのように思っていた次

第です。地域の中で人と人とがどうやってつながっていくのかということがすごく大きな課題なんですけれども、そのつながっていく顔の見える関係というのが、ひいてはいろいろな意味での安心、安全につながっていくのかなというふうに思っています。今県のほうで大変大きな問題になっております、津久井やまゆり園のああいった事件というのか、事故というのか、本当に心痛むものがあります。県のほうでも今いろいろな意味で情報も取りながらどうやって検証していくのかということの議論が始まったばかりでございますけれども、やはりそういった一つ一つを考えていったときに、顔の見える関係があれば、障害を持っていても、また年を重ねても安心して、いろいろな意味で地域で住み暮らすことができるのではないかと。地域の中で孤立した人をふやさないということが区にとって大きな課題なのかなというふうに思っています。大きな行政でつくるのではなくて、やはり顔の見える私たちの宮前区という単位だからこそできる人のつながりというものが、ぜひ区民会議の皆さんの御議論の中でさらに活発になっていけばと思いますし、また、そのお手伝いをさせていただきたいと思っています。6期のこれからの議論が活発なものになりますように、少し何かお力添えすることがありましたら、県のほうからも情報を取ってまいりますので、言っていただければと思います。きょうはありがとうございました。

川田委員長 どうもありがとうございました。参与の方からもいろいろが御意見をいただきましたので、これを参考にいたしまして専門部会のほうで絞っていただければと思っております。

(4)今後の審議スケジュールの確認

川田委員長 続きまして、今後の区民会議の流れを御説明いたします。

当面の進行として、第3回全体会までの審議の内容について御説明させていただきます。お手元の資料3をごらんください。まず、本日の全体会が終了した後、第1回、第2回の専門部会において部会長の互選での決定や、各テーマの現状調査などを行ってまいります。その中で専門部会名を決めていくこととなります。専門部会の中心になる部会長を互選で決めてまいりますけれども、決まるまでは副委員長が中心になって進行させていただきます。2回の専門部会終了後、第1回企画部会を開催いたします。企画部会は委員長、副委員長、各部会長で構成され、各部会の審議状況の確認を行い、第3回全体会の内容を検討いたします。10月中旬ごろに予定する第3回全体会では、各専門部会から審議状況の報告をしていただきます。第3回全体会以降は、さらに専門部会で審議を重ね、地域課題の洗い出しなどを行い、必要に応じて先進事例のリサーチなどを行い、29年1月ごろに開催を予定する第4回全体会でそれらの報告を行います。また、このころから年度末に開催する区民会議フォーラムの検討を進めていきます。フォーラムについては、委員の皆様のアイディアをいただきなが

ら、企画部会が中心となり企画を進めていく予定です。一般の区民の皆さんも参加していただき、区民会議の認知度向上と活動していただくための催しでもありますので、意義のあるフォーラムを開催したいと思います。委員の皆さんもどうぞよろしくお願ひいたします。そして、年度末には中間報告書を作成します。これをもって今年度の活動を終了し、2年目に続いていきます。

以上で今後のスケジュールの説明を終了いたします。

それでは、本日の第2回区民会議の審議をこれで終了いたします。以降の事務連絡については事務局をお願いいたします。お戻しいたします。

司会（堤） 川田委員長、どうもありがとうございました。

本日は長時間にわたり活発に御議論をいただき、まことにありがとうございました。

3 その他の連絡事項

司会（堤） それでは、最後に次第の3 その他の連絡事項を事務局よりさせていただきます。企画課の小西より説明をさせます。

事務局（小西） それではまず、「みやまえハテナノタネ」の進捗状況についてお伝えいたします。皆様のお手元に最初にお配りしてあったA3サイズの大きいものがそれに当たります。前期の第5期区民会議において、区内の魅力的な地域資源を区の内外の人に知っていただいて体験してもらえるための情報発信をテーマにした魅力探訪部会という部会があったんですけれども、その中で学校での地域学習ですとか、自由研究ですとか、親子での地域体験ですとか、そういったものに生かせる資料として、謎解き形式で地域資源の魅力を紹介するパンフレットを作成したんですけれども、それがこの「みやまえハテナノタネ」というものになります。これはレベルとしては、小学校4年生から6年生程度に設定をしてありまして、サイズは大きいんですけれども、折りたたむとA6サイズ、ポケットサイズになりまして、紹介するいろいろな魅力スポットへの行き方ですとか、地図をつけてあって、あとはその魅力に関連する書籍の紹介なども書かれています。

これを先月、7月の中旬ごろ宮崎小学校のほうに持ち込みまして、校長先生にこのパンフレットの説明をした上で、ちょうど夏休み前の時期でしたので、夏休みに生徒さんたちに実際に使用していただきたいとお願いをしてまいりました。校長先生のほうはこれを快く受け取っていただきまして、夏休み前に4年生と5年生の全員約400人に配付をしていただけました。今使っているかどうかというところなんですけれども、できれば夏休み後に使用した感想などもアンケートをとらせていただいたりして今後の参考にしていければなと考えているところです。

現状報告としては以上になります。

それからもう一つ連絡事項ですけれども、先日、第1回、第2回の専門部会とその後の第3回全体会の日程調整のほうをお願いしていたと思います。本日が締め切りとなっておりますので、まだ提出されていない方はお早めに御連絡いただければと思います。

それから最後ですけれども、本日の資料にもおつけしましたけれども、区民会議日より第34号が8月1日付で発行されました。こちらのほうはただいま、町内会、自治会の回覧のほうでも回っているものですので、皆さん実物をお手元にとってごらんいただければと思います。

連絡事項は以上になります。ありがとうございました。

司会（堤） ありがとうございます。

川田委員長 まだ時間が少々ございます。皆さん方や、それから区役所の方とはこれからもお話しする機会がございますが、せっかく本日、参与の方たちがお見えになっておりますので、織田議員、まだお話ししたいことなどがございましたら、お時間ございますので。こういう機会じゃないとなかなか皆さん方のお話は聞けませんので、よろしければどうぞ。

織田参与 言っていてありがとうございます。これは一つお願いなんですけれども、皆さん方と私ども参与といいますか、選出議員団と率直な意見交換の機会とか——かつてはちょっとやっていたんですが、最近切れちゃっています。まさにざっくばらんな場ですよ。物事を決めるということじゃなくて、率直に本音を言い合うと。そういうようなことで逆にいろいろな知見を私ども勉強させていただくと。そんな機会を一度つくっていただけるとありがたい。もちろん会費制で結構でございますので、そんなものをひとつお願いできればいいなど。実はずっと思っておりましたので、それを一つよろしく願いいたします。私のほうからはそういうお願いをします。そのときにまたざっくばらんにいろいろ御意見をさせていただけるとありがたいなどと思います。

川田委員長 中村委員、どうぞ。

中村委員 先ほどから鷺沼開発と言われていますけれども、どのような開発か私は存じないもので、お願いいたします。

織田参与 今川崎市のほうと東急電鉄が正式に協議体をつくりまして、おかげさまで平成28年、29年かけて、具体的に鷺沼駅前をどういう形にするのかと、その計画の基本的な青写真をつくろうとなっております。それで、実はこの秋口にも、どの程度の事業になるかという、いわゆるボリューム感というふうに言うんですけれども、それが粗々出てくるというふうになっていきます。その中で、議会のほうで議論させていただいているのは、バスベイをふやすというのが一つの大きな目的になっていきますので、どう

いう形でバス停をふやすことができるのか。バス停をふやす以上は、どのバス路線を新規に持ってくるのかと。それが1つ。それからもう一つ、集客という視点もありますので、いわゆる公益的な機能と。一部には区役所を移動しろなんて言う方もいるんだけど、そこまではなかなか難しいとは思いますが、いわゆる公益的な機能というものを持ってくることによって、市民の皆さんがより鷺沼駅に行くという必要性も出てくるだろうと。区役所がアクセスが非常に不便であるということは周知の事実で、ただこの区役所を全てもちろん否定はしませんが、向丘出張所と宮前区役所と、あともう一つ鷺沼の駅と。

それで、今回、鷺沼の再整備ということが決まったことで、画期的なことは、宮前区のまちづくりの基本というのが都市計画マスタープラン、これは皆さん御案内のとおりあるんですけども、その中でも、実は鷺沼の駅の役割——宮前平もそうなんですけど、非常に曖昧なままでこの間ずっと来ているんですね。まちづくり協議会なんておっしゃっていましたが、その前の区づくりプランの時代からそうですね。それが非常に曖昧なままで来ていて、その中でやっと交通結節の主要な駅は鷺沼であるという位置づけが初めてなされたということなんですね。ですから、非常に大ざっぱなことを言わせていただくと、宮前区内至るところから鷺沼に交通アクセスが可能になるということが一応理屈としては成り立ったということなんですけど、ただ当然、宮前平の駅もありますし、宮崎台もありますし、また溝の口に出る方もあるし、場合によっては向ヶ丘や登戸という方もあるので、地域によっていろいろな課題がありますけれども、少なくとも宮前区内での交通不便地域はなくしていこうと。その中で、交通のハブは鷺沼なんだという方向性だけは確認された。

あとは今矢沢議員のほうからも話がありましたけれども、市営地下鉄3号線、これはあざみ野から新百合ヶ丘に延伸をすると。これはもう方向性としては決まっています、あと川崎と横浜が事業費を幾らずつ持つのかという議論がこれから進む段階になっているんですけど、その中で私ども宿題としていただいているのは、今のままで真っすぐ行っちゃいますと宮前区は素通りになっちゃいますので、多少路線を曲げても宮前区が一番西のほうにでも——稗原のあたりにでも駅をつくれなのかと。そんな議論も実はさせていただいて、そうすると東の交通のハブは鷺沼になって、西の交通のハブは稗原周辺の新駅というふうになると、それぞれそこにバスの交通利便性を考えることができるのではないかと。そのような議論を今議会の中で、宮前区選出議員団の中でさせていただいているということです。

ただ、いずれにしてもお金がかかることでもありますし、あともう一つは、区長も一生懸命頑張ってくださいているんですけども、区だけではやり切れない部分もあるので、やはり本庁事業局との調整なんかも……。ただ、地域の皆さんの要望、ニーズを反映させるというのが一番大事なことでして、今区長に一生懸命頑張っていた

いているという状況であります。

だから、スケジュールでいきますと、ことし、来年、平成29年度末までに一応写真がしっかりできると。できれば平成30年度早いうちから具体的に工事に入ると。今そういうスケジュールになっているということでもあります。

矢沢参与 鷺沼再開発に関しては織田参与のほうから今お伝えしたとおりでございます。

ただ、あざみ野－新百合ヶ丘間ですが、具体的なルートはこれからです。前回の第1回は私は所用があって参加できなかったんですが、きょう欠席されている黒澤委員から聖マリを通ることが決まっているといった趣旨の内容が議事録には記載されていました。検討には入るでしょうが、それもまだ決まっていない話です。こういったのがひとり歩きしてしまうのは余りよくないものではございますけれども、方向性としては進めていくということになっておりまして、これから川崎と横浜で具体的な部分を詰めていければなというところでございます。補足です。

川田委員長 急な申し出でしたけれども、ありがとうございます。

山田委員 これは私が申し上げるようなことではないのかもしれませんが、東急と川崎市が東急沿線の再開発ということで契約がされたんですね。それを受けましてシンポジウムが行われました。これは概念的なことしか書いてありませんけれども、ある方向を示しているのではないかと思います。それでこの中には、ちゃんと野本区長も御発言になって、大変積極的ないい意見を述べられています。これは具体的なことではないかもしれないけれども、ある方向がわかるので、これを中村さんに差し上げてもよろしいでしょうか。また、場合によっては委員の方にも興味のある方には差し上げていただければと思いますけれども。これは公開されています。

青柳副委員長 それはこの間、市民館で開催されたシンポジウムですね。

山田委員 そうです。鷺沼の駅前のね。

事務局（高石） 事務局のほうから資料のほう、補足させていただきます。部数はそんなにないんですけども、本日部数がございますので提供させていただきます。

川田委員長 ありがとうございます。それではほかの参与の方、よろしいですか。補足することはございませんか。

渡辺参与 先ほど交通インフラのところ、8月から社会実験で向ヶ丘遊園からたまプラーザまでバスが、昼間の時間だけですけれども走っています。私も一回ちょっと乗ってみようかなと思っています。この社会実験がうまくいけば、東急と川崎の市バスとで交互にやっていきますので、ぜひ皆さんこれにはいっぱい乗ってください。

山田委員 済みません、それに遠くも近くもない関係なんですけれども、向ヶ丘地区と田園都市線のほうの交通のネックになっているのは、清水台のところからたまプラーザに抜ける数十メートルの擁壁なんですね。あれは何とかならないんですかね。

織田参与 それは工期が5年ですか、もう動いています。

山田委員　そうですか。向ヶ丘地区はあれが通るとすごく活性化されると思うんです。今あそこが完全に交通ネックになっていて、これから特にリニア新幹線の土砂があそこを通って川崎港まで行くんです。よろしくお願いします。

川田委員長　ありがとうございます。

矢沢参与　少し補足すると、本年度で1カ所だけ残っていた用地が買収が全部終わりますので、それであとは横浜のほうに抜ける準備をしていくということで、5年間というふうに聞いています。

川田委員長　ありがとうございました。さっき織田参与が言った情報交換会、まさに今それの一部があったんじゃないかなというふうに思います。いかがでしょうか。事務局のほう、そういった機会を設けていただきまして、参加できる方は参加して、また情報交換をしていただければと思います。そして、ただいま県会議員の持田参与がいらっしゃって、何か一言よろしくお願いします。

持田参与　皆さんこんばんは。大変遅くなりまして、またこんな服装で恐縮であります。6期目の皆さん大変ありがとうございます。宮前区のことをいつもアンテナを立てていただきながら、皆様方がしっかりと情報を周知いただいて、また新たなものをつくり出していこうということで、あるいはまた、これまであるものをしっかりと存続させていただこうということで、こうして皆様方が御議論いただいております。心から感謝申し上げたいと思います。

遅くなってしまったわけですがけれども、実はきょう、三浦半島の小網代の森というところを視察をさせていただいております。議員7人で視察をさせていただいて、あとの6人はその後があるということで、私だけ戻らせていただいたんですが、今になってしまいました。小網代の森というところは、京急さんが開発を進めようということで土地を購入して進めておりましたけれども、自然環境で絶滅危惧種のものがありました。あるいはすばらしい森林でありということで、自然体系はそのまましっかり神奈川の中で残していこうということで、そこへ県が介在させていただいて、京急さんは開発断念という形でなくなってしまったわけでありまして。しかし、今しっかりとした散策路もできまして、自然の形態が残っているという場所でございます。ここを見させていただいて、さて宮前区に持ち帰ったときにどうなのかなとふと思いましたとき、宮前区の中でそうしたところは今少なくなっているんですけれども、そこを向ヶ丘の地域の河川を利用してしっかりと自然を守ろうとか、そういう活動も盛んに、子どもさん、小学生の方々も入っていただいております。あるいは、野川の橋樹官衙遺跡群ということで国の史跡指定がございました。史跡指定があつて、これで全てよしでなくて、史跡指定があつたものをどのように地域として守り、先々利活用——利活用という言葉がいいのか悪いのかわかりませんが、観光とかいったことで利活用していくのがよろしいのか、そういったことも一つの大きな検討になって

いくのかなとも思っております。

ぜひともいろいろな角度から、皆様方が日々の活動の中でいろいろなところに目を向けていただきながら、またすばらしい宮前区づくりに向けて、あるいは川崎づくりに向けて、神奈川づくりに向けてお力添えをいただきますことを御期待申し上げたいと思います。私自身も微力でありますけれども、県下の状況等といろいろ見させていただきながらまたお伝えができればとも思っております。どうかよろしく願いいたします。

川田委員長 どうもありがとうございました。きっと息せき切っていらしてくださったと思うんですけども、ありがとうございました。

先ほど織田参与の提案で、またこちらにいる区民会議委員の方と参与の方たちとで情報交換会を再開しないかということをしていただきまして、それをぜひ実現するよう事務局のほうに申し出た次第でございます。また、そのときは持田参与も御参加いただければと思います。織田参与、ありがとうございました。

副区長、申しわけございません。それでは本当にお返しいたします。

司会（堤） 委員の皆様、それから参与の皆様、本当にきょうの区民会議は貴重な場になったと思います。また、率直な意見交換の場もというようなことでございますし、大変意義深い区民会議だったと思います。どうも皆様、ありがとうございました。

閉会にいたします。

午後 7 時 47 分閉会